



「やさしく豊かな心を持ち、共に学び、共に育つ 北小っ子」に！

「全国学力学習状況調査」 「すくすくウォッチ」の結果から

今年度、4月23、27日に6年生を対象として「国語・算数」の学習状況、生活の様子や意識を調べる全国学力・学習状況調査が実施されました。また、28日には、5年生と6年生を対象に、大阪府独自の「すくすくウォッチ」テストを実施いたしました。テスト内容は、5年生が「国語・算数・理科」、6年生が「理科」、そして5、6年生共通で教科の枠を超えた「わくわく問題」と「児童アンケート」となっています。

「わくわく問題」では、文章や図・グラフを読み取り、自分の考えを言葉で表現する力を調べています。「児童アンケート」では、普段の学習の様子や生活についての意識を調べています。



これらの結果は子どもたちのすべての姿を表すものではありませんが、テストから分かった結果をもとに、今後の授業や子どもたちへの関わり方をより良くしていくために活用してまいります。今年度の結果から見てきた子どもたちの「良いところ」と「今後の課題」についてお知らせいたします。

(本校の学力向上にかかわる「研究部」のまとめを加筆・修正したものととなります。)

※アンケートに関する「高い」「低い」の表現は、肯定的回答の割合となります。

【5・6年生の学習面における良い点】

1. 自分の考えを表現し、みんなで「共創」する力の伸び

「わくわく問題」や「理科」の正答率は、5・6年生ともに大阪府の平均を上回る結果となりました。一部の子どもだけでなく、全体として基礎・基本の力が底上げされていることが分かります。

また、自分の考えを文章でまとめる問題や、図や表を使ってわかりやすく整理する問題でも素晴らしい成果が見られました。日頃から「根拠をもって自分の考えを書き、友だちと伝え合う活動」を重ね、一人ひとりのアイデアを掛け合わせて新しい考えをつくり出す授業を追求してきた成果が着実に現れています。

2 最後まであきらめずに粘り強く挑む姿勢（無回答率の低さ）

問題の答えを空白のまま残す「無回答率」が全国平均と比べて非常に低い結果となりました。難しい問題や長文で答える記述問題に出合っても、途中で投げ出さず、自分の



言葉で最後まで書ききろうとする粘り強い姿勢が見られます。課題に向き合うこの前向きな態度は、今後も大切に育んでいきたい本校の子どもたちの大きな強みです。

3. 「学び合う喜び」を実感し、友だちと力を合わせる姿

児童アンケートからは、「しっかり理解できるまで必要なことを探して学びたい」や「話し合いの時に、自分と友だちの考えを比べながら聞いている」といった回答が多く、平均を大きく上回りました。

本校では「学び合う喜び」を実感できる授業づくりを進めています。自分と異なる考えを大切にし、対話を通して学びを深める土壌がしっかりと育っています。

また、「黒板の文字をしっかりとノートに写している」といった基本的な学習習慣でも、肯定的な回答が得られました。



【5・6年生の学習面における課題点】

1. 知識、技能に基づく、正確な適用（国語）

国語において、5年生は大阪府の平均正答率を下回る結果となりました。特に、漢字やローマ字、文法などで定着不足が見られました。同音異義語やローマ字の大文字と小文字の使い分け、主語に応じた文末表現など、朝学習など短い時間を利用して繰り返し復習したり、日常的に活用したりしていくことで定着を図っていきます。

6年生においては、「140字以内にまとめて書く」といった条件に沿った解答をする問題で課題が見られました（正答率25%）。また、文章読解に関する「読むこと」の分野でも正答率が低くなっています。児童アンケートでは、「1日にどれぐらいの時間、読書をしますか」の質問に対し、半数以上の児童が0～10分以内と回答していました。まとまった文章を集中して読み続ける力や語彙力を高めるとりくみを進めます。

2. データの比較と予測へのアプローチ（算数）

算数では、5・6年生ともに「測定／変化」の領域で課題が見られました。この領域には、「速さ・割合・面積・比例」などが含まれます。複数の条件を整理し、数量の関係性を論理的に捉える力が問われます。

公式に頼るだけではなく、「線分図」や「関係図」などを繰り返し描くことで、何を「1（基準）」とみているのかを視覚的に把握し、立式する習慣をつけられるように指導していきます。

【5・6年生の生活面における良い点】

1. 友だちを思いやり、みんなで育ち合う温かい関係

「友だちと協力するのが楽しい」や「話し合いで友だちの意見を最後まで聞いている」などの項目で、高い肯定的な回答となりました。

また、「誰かががんばっている姿を見ると、応援したくなる」といった回答も多く、自分と友だちの「ちがい」を力に変えながらお互いのがんばりを認め合い、共に育ち合える温かい人間関係が学級の土台となっています。

2. 「将来の夢」をもち、工夫して乗り越えようとする姿勢

「将来の夢や目標をもっている」や「勉強や課題がうまくいかない時は、自分でやり方を変えて試している」の項目で、大阪府の平均を大きく上回る肯定的な回答がありました。自分の未来に希望をもち、壁にぶつかった時も諦めずに工夫しようとする頼もしい姿が見られます。

また「授業で学んだことを、普段の生活に生かすようにしている」の項目でも、高い回答が得られました。学校と社会を分断せずに捉える柔軟さがうかがえます。学びを土台に、キャリアを切り拓いていける人材に育つことを願っています。

【5・6年生の生活面における課題点】

1. 「自分はよくできている」「認められている」という実感(自己有用感)

高学年になると自分に厳しくなったり、周りと比べて悩んだりしやすい時期でもありますが、子どもたちが「自分は役に立っている」「見守られている」と実感できる関わりが大切だと受け止めています。学習面だけでなく、係や当番活動への自主的な取り組み、役割意識の高まりなど「粘り強く工夫した過程」や「日々の小さな成長」を意識的に認め、一人ひとりの良さをしっかり価値づけていきたいと思います。

2. 家庭での会話の時間と生活リズムの整え

「朝食を毎日食べている」の質問では、9割の児童から肯定的な回答が得られました。一方で、「家の人とその日の出来事について話をしている」や「家で家族と一緒に過ごしたり手伝いをしたりしている」の割合は、大阪府の平均より低くなっています。親離れ・自立が進む時期ではありますが、家庭でのコミュニケーションや、夜ふかしをせず早寝早起きをする生活リズムづくりについて、引き続き見守りをお願いできれば幸いです。

【最後に】

今回の調査を通して、本校の子どもたちが「学び合う喜び」を感じながら、高い意欲と基礎学力を身につけ、友だち同士で高め合っていることが改めて確かめられました。

子どもたちが自分の良さに自信をもち、将来の夢に向かって笑顔で歩いていけるよう、これからもご家庭と学校がしっかり連携して温かく支えていきたいと思っています。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

